

職能別資格検定試験詳細規定

2024年3月1日
公益社団法人日本山岳ガイド協会
試験・研修委員会

スキーガイド資格

スキーガイドステージ I

●職能範囲

ピッケル、アイゼン、ロープなどを使用せず登高できる雪山で、スキー場・一般道路終点等から登行時間2時間かつ標高差400mの範囲内で斜度30度以下のエリア。
帰路に50m以上の登り返しがないこと。山中泊は含まない。ガイドレシオ 最大1：8

●受験資格

登山ガイドステージⅡ・Ⅲあるいは山岳ガイドステージⅠ・Ⅱ資格を持ち、バックカントリースキー歴3年以上、100日以上の経験を有する者。また、本会正会員として、資格認定証の有効期限内であること。

●受験の流れ

①筆記試験

②ファーストエイド講習（4日間）受講・雪崩対策技術（4日間）受験もしくはJAN雪崩従事者レベル1受講

※JAN雪崩従事者レベル1受講は筆記試験受験の前後を問わないが、筆記試験合格後でないと免除申請は行えない。

③スキーガイドステージⅠ検定（5日間）受験

ファーストエイド講習受講済であること。また、雪崩対策技術検定に合格、もしくはJAN雪崩従事者レベル1受講を受講し、免除申請済みであること。

●受験申請書類（筆記試験申請時提出書類）

①受験申請書

②バックカントリースキー歴報告書

●筆記試験（一次試験）

・筆記試験料 22,000円（※専門科目のみのため）

●筆記試験科目

試験科目	出題内容
専門科目 スキーガイド専門知識	①コース選択とガイディング技術 ②装備についての知識 ③雪山の地形 ④雪崩発生メカニズム ⑤雪山の科学 ⑥意思決定や人間行動・認知について

専門科目 雪山の安全管理	①雪山における気象の特徴 ②雪山の地形と雪崩回避の技術 ③雪山における体調管理 ④セルフレスキューの方法 ⑤雪崩ハザードの評価と予測・ハザードとリスク
小論文	①ガイドの役割や責務、およびガイドの資質について問う ②自然の知識と解説能力を問う

・筆記試験の実施は他のガイド種別と同時に行う。

●有効年数

一次試験合格後から5年度以内に資格を取得する必要がある。

※5年度以内に資格取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、書類審査から再受験となる。

●実技検定試験（二次試験）

①実技検定試験受験申込書

②実技検定試験受験誓約書

●実技検定試験科目および検定試験料（全て税込表示）

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
雪崩対策技術	日本国内	4日	77,000	免除規定（注1）
スキーガイドステージI	日本国内	5日	82,500	

（注1）日本雪崩ネットワークのレベル1修了者は認定養成指導者による推薦を持って免除申請することができる。この場合、11,000円の審査料となる。

●受験者義務講習および講習受講料（全て税込表示）

講習項目	講習地	日数	講習受講料	備考
ファーストエイド講習	日本国内	4日	49,500（4日間）	検定は行わない

※ファーストエイド講習会2日間は該当しない。4日間の講習会を必ず受講すること。

受験者義務講習会は、ガイドの安全管理にとって重要な科目となっている。本科目を受講しない場合にはスキーガイドステージI検定は受験・申込もできないので、予め講習会受講日程をよく把握しておくこと。

●資格更新について

・資格は3年間の資格有効期限内に4ポイント以上の資格更新研修を修了することで更新される。

・本会会員が既に取得している他の資格は、新たに取得した資格の有効期限と同一の有効期限が付与される

【更新の流れ】

①更新研修申請＋研修費納入→②更新研修履修→③研修レポート提出→④更新研修修了証発行→
⑤4ポイント履修終了→⑥全てのガイド資格の更新

●検定員・講師の配置

スキーガイドステージⅠの実技検定には受験者6名以内に対して1名の検定員を配置する。ただし検定員が1名の時は別途1名の監督者を派遣する。(安全性、判定の公平性を保つ為) 雪崩検定に関しては5名に対して1名の検定員を配置する。ファーストエイド講習は別途定める。

●怪我、病気その他、特別な理由で有効年数内に試験または義務講習会が受けられない事態が発生した場合は、それを証明する書類(診断書または本人の理由証明書など)を提出し、本会試験・研修委員会の審議に諮り期間の延長が認められる場合がある。

●結果通知に関しては合否のみであり、内容、詳細の問い合わせについては応じない。

※2022年度までの継続受験者は、その年度までの詳細規定に準ずる。

【スキーガイドステージⅠ科目の養成指導の免除申請について】

※スキーガイドステージⅠ科目の養成指導は2023年度より廃止とする。既にスキーガイドステージⅠ科目の養成指導を受講していた場合、推薦状の有効期限内に免除申請を行えば2022年度までの詳細規定に準じて免除とする。ただし、筆記試験ならびにファーストエイド講習会と雪崩対策技術を合格あるいは免除していなければ当科目の免除申請は行えない。

※推薦状の有効期限内であれば免除申請は可能であるが、スキーガイドステージⅠ科目の受験資格にある登山ガイドステージⅡ・Ⅲあるいは山岳ガイドステージⅠ・Ⅱ資格を持ち、また本会正会員として入会していなければ、スキーガイドステージⅠ資格認定とはならない。

●当詳細規定に記載の金額は全て税込表示である。

スキーガイドステージⅡ

●職能範囲

ピッケル、アイゼン、ロープなどを使用せず登高できる雪山で、スキー・スノーボードガイドを行うことができる。

残雪期においては早朝時等のピッケル・アイゼンの利用は許容される。ただしロープの使用が必要とされる地形は除く。

緊急時におけるピッケル・アイゼン・ロープの使用はこの限りではない。

ピッケル、アイゼン、ロープの使用が前提となるエリアは山岳ガイド資格が必要となる。

ガイドレシオ最大1：6

●受験資格

スキーガイドステージⅠ資格を持ち、正会員としてスキーガイドステージⅠガイド実務経験が1シーズン以上（10日以上）あること。且つスキーガイドステージⅡ資格のサブガイド実務経験が5日間以上あること。

2日以上の中泊（テントもしくは雪洞等、山小屋・避難小屋は除く）5本以上のスキー山行経験を有すること。

ファーストエイド講習受講済であること。また、雪崩対策技術検定に合格、もしくはJAN雪崩従事者レベル1受講を受講し、免除申請済みであること。

また、本会正会員の場合は、資格認定証の有効期限内であること。

●必要な書類

【書類審査】

- ①書類審査申請書（協会ホームページからダウンロード）
- ②スキーガイド歴（日時、ルート、ゲスト数、サブガイド時のステージⅡリードガイド名等）
スキー山行歴（5本以上の山中泊）報告書

【実技検定試験】

- ①実技検定試験受験申込書
- ②実技検定試験受験誓約書

●書類審査内容

提出書類の整合性、スキー歴（ガイド歴）の審査を行う。

書類審査日から10日以内に合否通知を発送する。

書類審査合格者のみ、以降の試験を受験できる。

●検定科目と検定試験料（全て税込表示）

検定科目	検定地	日数	検定試験料
書類審査			5,500
スキーガイドステージⅡ（厳冬期）	日本国内	7日	110,000
スキーガイドステージⅡ（残雪期）	日本国内	4日	66,000

●受験の流れ

書類審査～スキーガイドステージⅡ（厳冬期）～スキーガイドステージⅡ（残雪期）の順で受験すること。残雪期科目の受験に厳冬期科目の合否は問わない。

ただし、全日程に参加すること。両科目合格で認定とする。

●有効年数

書類審査合格後から5年度以内に資格を取得する必要がある。

※5年度以内に資格取得できず、再度資格試験を受けたい場合は、新規受験と同様、書類審査から再受験となる。

●資格更新について

・資格は3年間の資格有効期限内に4ポイント以上の資格更新研修を修了することで更新される。

・本会会員が既に取得している他の資格は、新たに取得した資格の有効期限と同一の有効期限が付与される

【更新の流れ】

①更新研修申請+研修費納入→②更新研修履修→③研修レポート提出→④更新研修修了証発行
→⑤4ポイント履修終了→⑥全てのガイド資格の更新

●検定員・講師の配置

スキーガイドステージⅡの実技検定には受験者5名以内に対して1名の検定員を配置する。

ただし検定員が1名の時は別途1名の監督者を派遣する。(安全性、判定の公平性を保つ為)

●怪我、病気その他、特別な理由で有効年数内に試験または義務講習会が受けられない事態が発生した場合は、それを証明する書類(診断書または本人の理由証明書など)を提出し、本会試験・研修委員会の審議に諮り期間の延長が認められる場合がある。

●結果通知に関しては合否のみであり、内容、詳細の問い合わせについては応じない。

●当詳細規定に記載の金額は全て税込表示である。